

3 時制① 現在・過去・未来

① I go to bed before midnight every night.
 (私は毎晩午前0時前に寝る)

② Ken came from Okinawa. (Kenは沖縄から来た)

③ The weather will be fine tomorrow.
 (明日、天気はいいだろう)

ウォームアップ これだけ押さえて、すぐ次へ!

このCHAPTERからは、動詞の操作で最も手ごわい「時制」をカバーします。まずは基本時制である「現在形」「過去形」「未来形」について確認しましょう。

(1) 現在形

現在の事実や習慣を表す時制を「現在形」と呼びます。例文①は「毎晩午前0時前に寝る」という意味で、「現在の習慣」を表しています。現在形で特に注意すべきは、既に一度触れた「主語が三人称単数現在形 (he, she, it) の場合」で、動詞の語尾に **s** もしくは **es** がつきます。

例) He goes to bed before midnight every night.

(2) 過去形

過去の事実や習慣を表す時制を「過去形」と呼びます。例文②は、Kenが「来た」という過去の事実を表しています。過去形をつくるには、動詞の語尾に **ed** もしくは **d** をつけますが、このルールに従わずに**不規則変化**をするものがあるので注意が必要です。(解答&解説のところにも不規則動詞の一覧表を載せておきますので参照してください)

(3) 未来形

まだ起きていない未来の出来事について「～でしょう」と語る時制を「未来形」と言い、英語では**助動詞 will** を用いて表します。既に学んだように、willの根本は「意志」。従って、「未来」を表すwillも、「漠然とした未来」ではなく、「(意志を内に含んだ) 予想」であり、英語には未来時制は存在しないという考え方もあります。しかし、本書では「現在・過去・未来」とできるだけシンプルにとらえるため、willを使った未来時制があるものとして書き進めます。

ここで、マーキングを再度確認してみてください。気づいたことはありませんか？

そうです。時制が変わろうとも、単純時制（現在形、過去形、未来形）については、これまでに学んだマーキングの原則がそのまま当てはまり、何ひとつ変更する必要はないのです。例えば動詞が現在形から過去形にかわっても、□は移動しません。未来形は、助動詞 will に波線を引き、後に続く動詞に□をつけるだけです。

最小限のルールさえ押さえれば、幅広く応用が利く。これが文法のすごさであり、マーキングはそれを体感するためのツールなのです。

このCHAPTERで学ぶマーク

● 未来をあらわす助動詞 will に波線 

では、早速、10問テストでチェックしてみましょう。

14 比較

① George **is** as tall **as** his father **was** at his age.

(George は彼の年齢のときの彼の父親と同じくらい背が高い)

② Ken **is** doing better **than** he **was** yesterday.

(Ken は昨日よりもよくやっている)

ウォームアップ これだけ押さえて、すぐ次へ!

従属節を導く語が、まだまだ続きます。次は「比較」を表す **as** と **than** です。これらも接続詞の一種ですが、比較は特に重要な表現のひとつですので、ここで1章を割いて特集します。

なぜ、比較が重要なのか。それは、物事について語る際に比較が欠かせないからです。いわゆる相対評価は、他者との比較のことです。例えば、「クラスで一番数学ができる」「先月の営業成績はAさんと同じくらいだった」「走るのだけはあいつより速い」などがこれにあたります。

加えて、実は絶対評価もまた、比較から逃れることはできません。なぜなら、絶対評価は、過去の自分との比較が軸となるからです。「先週から少しだけ伸びた」「1年前よりむしろ伸び率は下がっている」と言った具合です。

「過去も未来も一切考えずに生きる」という仙人のような境地に達しない限り、私たちは相対評価も絶対評価もしないで生きることはできません。ゆえに「比較」は私たちの日常に深く入りこんでおり、そのための表現は当然重要ということになります。

(1) as

まず、例文①のパターンから。接続詞 **as** を使えば、「**◯が□する(である)のと同じくらい**」という意味の副詞節をつくることができます。

一般的には「**as + 形容詞(副詞) + as ◯□**」という形をとります。なお、**□**が自明の場合には省略される場合もよくあります。以下のセンテンスはその一例で、**is** の繰り返しを避けて省略しています。

George is as tall as his father. (George は彼の父親と同じくらい背が高い)

(2) than

続いて例文②のパターンを。接続詞 **than** を使えば、「**◯が□する(である)のよりも**」という意味の副詞節をつくることができます。一般的には「**形容詞(副詞)の比較級 + than ◯□**」という形をとり、**as** と同様、こちらも **□**が自明の場合には省略されることがよくあります。以下のセンテンスはその一例で、**is doing** の繰り返しを避けて省略しています。

Ken is doing better than Robin. (Ken は Robin よりうまくやっている)

なお、冒頭の例文②の場合は、**than** の後に続くべき“**he was doing**”から、重複を避けて現在分詞 **doing** のみが省略されています。

このCHAPTERで学ぶマーク

- 接続詞 **as, than** に二重線
- **as, than** に導かれる小センテンスを **as, than** ごと小カッコ()でくくる(**□**が省略されていても小カッコはつける→省略を発見する手がかりになる)
- 主節(カッコでくくられていない方の **◯□**のかたまり)に★をつける

では、早速、10問テストでチェックしてみましょう。